View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

吉備国際大学研究紀要
（人文・社会科学系）
第29号，55－59，2019

連携スキル学習における看護学生の気づきと学び

清水　菜月・池永　理恵子*

Nursing students' finding and learning in the collaboration skill learning

Natsuki SHIMIZU, Rieko IKENAGA*

Abstract

In order to investigate the awareness and learning of nursing students regarding collaborative skill learning, a survey was conducted using the reflection sheets of students. It was shown that through collaborative skill learning, nursing students became aware of the expertise of other occupations, the expertise of nurses and their role in multidisciplinary collaboration, the communication skills required for collaboration, etc. As a result of what was learned through collaborative skill learning, students could think about the approach to promote the building of relationships of trust. It was revealed that the image of the way of collaboration becomes possible by experience in hospital clinical practice.

Key words：Nursing student, career education, collaborative skill learning
キーワード：看護学生，キャリア教育，連携スキル学習

1．はじめに

急速な少子高齢化の進行に伴い，人口・世帯構造や疾病構造の変化が起こり，2025年には高齢人口が約3,600万人に達すると予測されている。また，医療技術の高度化への対応として，国は平成24年に社会保障・税一体改革大綱を出し，地域の実情に応じた医療・介護サービスの提供体制の効率化・重点化と機能強化の方針を示した[1)]。その中で，国は少子高齢化社会を支える医療サービス提供体制の一つとして，多職種協働によるチーム医療や在宅医療の推進及び地域包括支援システムの構築を挙げている。患者のケアや，要介護者の地域での生活を支える上で，保健・医療・看護・福祉等の多職種連携は欠かせないものとなっている。そのため，看護師には他職種の理解や連携に必要なコミュニケーションスキ

吉備国際大学保健医療福祉学部
〒716-8508　岡山県高梁市伊賀町８
Kibi International University
8, Iga-machi, Takahashi, Okayama, Japan（*716-8508*）
* 関西福祉大学教育学部
〒678-0255　兵庫県赤穂市新田380-3
Kansai University of Social Welfare
380-3, shinden, akoshi, hyogo, Japan（*678-0255*）

ルの習得が求められている。また，保健医療福祉における協働と連携に関わる知識・技術は，看護の学士教育の中で習得するべき能力の一つに挙げられている。

平成17年の『文部科学省の特色ある大学教育支援プロジェクト』から，大学教育に多職種連携教育（Interprofessional Educatioun, 以下IPE）が導入されるようになった。平成21年時点における保健医療福祉系大学を対象としたIPEの認知度調査では，約20％の大学がカリキュラム改正をしながら効果を検証している[2)]。

吉備国際大学では，保健医療福祉学部の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，社会福祉学科の４学科で，平成20年より本学のキャリア開発Ⅱの講義の中にIPEを取り入れ，コミュニケーションスキルを中心とした多職種連携のための学習を実践している。本稿では，本学で実施しているIPEを連携スキル学習とする。

今回は，連携スキル学習に参加した看護学科の学生の学びについて報告する。

(1) 本学の連携スキル学習の実際

本学の連携スキル学習では，保健・医療・福祉領域における各専門職の業務内容や援助方法，そして専門職間の連携について，ロールプレイを通じて実践的な学びを得ることを目的としている。お年寄りと家族と一緒に施設退去について考えてゆく場面を設定し，演習を行った。平成29年度の連携スキル学習のタイムスケジュールを表１，連携スキル学習の様子を写真１に示す。

連携スキル学習に参加した学生はA大学の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，社会福祉学科及び順正B専門学校介護福祉学科の計181人であった。また，各学科からファシリテーターとして教員が29名参加した。グループ編成は，８～９名の学生の構成で21グループ（８×10G，９名×11G），グループ担当教員が１名で構成とした。

表１　平成29年度　合同演習タイムスケジュール

	内容
10:00	〈ロールプレイⅠ　利用者への声かけ面接〉
	ロールプレイⅠの説明
10:10	デモンストレーション（2人の教員による演習）
10:20	①教員の高齢者
	②Bの高齢者vsCの専門職
10:50	フィードバック
11:05	全大会で感想を聞く、ロールプレイⅠのまとめ
	休憩（11：10～11：25）
11:25	〈ロールプレイⅡ　ケースカンファレンス〉
	ロールプレイⅡの説明
	ロールプレイⅡの配役は担当教員の指導の下にその場で決定
11:35	①1番目のプレイヤー4名が配置につき会議を開始
	②2番目のプレイヤーと交代し、前の会議を継続
12:15	フィードバック
12:25	全大会を聞く、ロールプレイⅡのまとめ
	昼休み（12：30～13：10）
13:10	〈ロールプレイⅢ　家族面接〉
	ロールプレイⅢの説明
13:15	役割づくり　高齢者と妻の役
13:30	①1番の専門職2名vs高齢者と妻役の2名
	2番目の専門職2名vs高齢者と妻の役の2名　途中で交代できる
13:55	フィーバック
14:10	全大会で感想を聞く、ロールプレイⅢのまとめ
	休憩（14：15～14：30）
14:30	全体のふりかえり
	目的と方法の説明
14:40	グループディスカッション開始
14:50	発表準備（発表内容のまとめ）
15:00	ロールプレイⅡ発表　奇数グループ
	ロールプレイⅢ発表　偶数グループ
15:30	グループでのまとめ、各教員へのお礼

事例を用いたシナリオをもとに〈ロールプレイⅠ利用者への声かけ面接〉，〈ロールプレイⅡケースカンファレンス〉，〈ロールプレイⅢ家族面接〉の３場面を設定し，各種の専門職種になりロールプレイを実施した。

写真１　連携スキル学習の様子

ロールプレイ終了時には，各グループでファシリテーターを中心にフィードバックの時間を使って発表を行った。事例プロフィールを図１に示す。

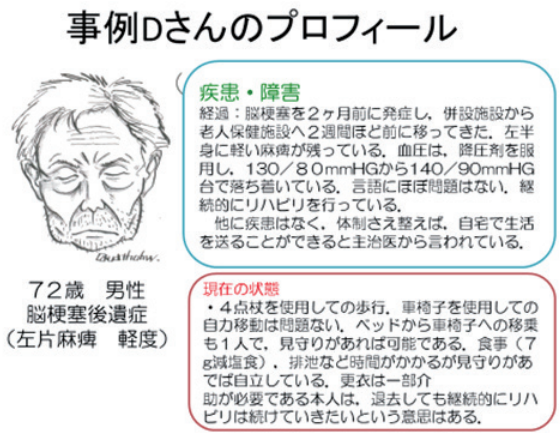

図１　事例のプロフィール

２．研究目的

看護学生が看護・理学・作業・社会福祉の学生との合同で行った連携スキル学習において，どのような学びが出来たかを明らかにする。

３．研究方法

(1) 対象

対象者はA大学保健医療福祉学部看護学科２年生で連携スキル学習に参加した56名とした。

(2) 調査期間及びデータ収集方法

調査期間は平成29年10月14日である。連携スキル学習で用いた振り返りシートの記述内容をデータとした。振り返りシートには「連携スキル学習でどのようなことを学んだか」「連携スキル学習で学んだことを今後どのように活かせるか」の２つの項目について自由記述で回答させた。学生には，研究の趣旨と目的，及び倫理的配慮について書面と口頭で説明し，研究参加について同意を得た。

(3) 分析方法

分析方法は質的帰納法を用いた。

４．倫理的配慮

個人情報の取り扱いやデータの処分についても書面と口頭で具体的な説明を行った。調査実施にあたっては，研究同意書の確認を行った。学生には得られたデータは成績に影響しないこと，研究に参加することは自由意志であることや学生の成績には一切関与しないことを保障し精神的負担に配慮した。また，本研究を関連学会で発表することについても同意を得た。研究全体を通して得られたデータの管理は研究者の責任の下，外部に漏洩しないよう，厳重な管理をするとともにその取り扱いについては個人の特定が出来ないよう，個別のデータは記号化し，個人情報の保護に努めた。研究終了後は速やかに電子データの消去，及び紙媒体についてはシュレッダーで処分した。

５．結果

学生から回収した振り返りシートは56部で，有効回答であった全ての振り返りシートを分析対象とした。「連携スキル学習でどのようなことを学んだか」，「連携スキル学習で学んだことを今後どのように活かすか」の項目についての記述をデータ化し分析した。

(1)「連携スキル学習でどのようなことを学んだか」

186のコードが抽出され，16のサブカテゴリに分類された。さらに【他職種の専門性の気づき】，【看護の専門性と多職種連携における役割】，【患者や家族の思いの理解の重要性】，【チーム医療における課題解決】，【連携に必要なコミュニケーション能力】という５つのカテゴリが導き出された。表２に示す。

表２　連携スキル学習でどのようなことを学んだか

カテゴリ	サブカテゴリ
他職種の専門性の気づき	看護以外のアセスメントの視点を知る
	看護以外の職種の役割を知る
	他職種の役割を理解することの必要性
看護の専門性と多職種連携における役割	自分の意見を多職種に伝える重要性
	患者に寄り添ったケアプランの必要性
	連携する上で看護師に必要な役割
患者や家族の思いの理解の重要性	患者や家族の不安の把握
	患者を中心に考えた連携
	家族の思いの理解と情報共有
	患者の立場の体験からの学び
チーム医療による課題解決	チーム医療の大切さ
	信頼関係の重要性
	目標の共有による課題解決
連携に必要なコミュニケーション能力	患者・家族を安心させるためのコミュニケーション能力
	専門職間の連携に必要なコミュニケーションの取り方
	カンファレンスにおけるコミュニケーション能力

表３　演習で学んだことを今後どのように活かすか

カテゴリ	サブカテゴリ
信頼関係を築く働きかけの理解	話しやすい雰囲気や接し方を意識する
	コミュニケーションや調整力を大切にする
専門職間で関係性を築く能力の不足の認識	カンファレンスなどできないことの認識
	自分の意見を発信することの難しさの理解
患者・家族の立場に立ったケアの意識化	患者の立場になって考える
	患者や家族のことを考えたケアを意識する
看護職としての連携	連携を意識した看護を行う
	患者と家族を考えたケアを意識する
専門職としての知識の重要性	専門知識を持つことの重要性の理解

ここでは，導き出されたカテゴリを【　】，サブカテゴリを『　』，で表した。

(2)「連携スキル学習で学んだことを今後どのように活かせるか」

101のコードが抽出され９のサブカテゴリに分類された。さらに【信頼関係を築く働きかけの理解】，【専門職間で関係性を築く能力の不足の認識】，【患者・家族の立場に立ったケアの意識化】，【看護職としての連携】，【専門職としての知識の重要性】の５つのカテゴリが導き出された。表３に示す。ここでは，導き出されたカテゴリを【　】，サブカテゴリを『　』，で表した。

６．考察

(1) 演習での学び

連携スキル学習を通して看護学生は，【他職種の専門性の気づき】，【看護の専門性と多職種連携における役割】，【チーム医療における課題解決】，【患者

や家族の思いの理解の重要性】，【連携に必要なコミュニケーション能力】についての気づきがみられた。多職種連携コンピテンシー開発チームが示している，協働的能力としての多職種連携コンピテンシーモデルのコア・ドメインを支え合う４つのドメインでは「職種としての役割を全うする」「関係性に働きかける」「自職種を省みる」「他職種を理解する」が挙げられており[3]，本調査における看護学生も看護師としての自分の職種の振り返りや他職種の専門性の理解がみられており，これは多職種連携コンピテンシーモデルに類似した内容を学んでいることが考えられる。このことは，知識だけでなく，ロールプレイを通して専門職や事例の高齢者，家族のそれぞれの役割を複数回演じてみる体験から，より具体的に学びを深めることが出来たと考えられた。

(2) 学びをどのように活かしていくか

連携スキル学習を通して看護学生は，学んだことを今後どのように活かすか，については，【信頼関係を築く働きかけ】，【専門職間で関係性を築く能力の不足の認識】，【患者・家族の立場に立ったケアの意識化】，【看護職としての連携】，【専門職としての知識の重要性】といった結果が示された。今回と同様の調査を行った先行研究では，連携スキル学習を実習で活かすことが出来たと感じた看護学生は約18％に留まっており，これは対象の看護学生が初めての病院実習で実習目標に沿った内容に精一杯で，連携スキル学習を活かす余裕がなかったものと示されていた[4]。今回の調査対象である看護学生は，連携スキル学習の２か月前に，１週間の病院での基礎看護実習を経験している。そのため，連携スキル学習における学びを病院実習等で活かしていく内容を具体的にイメージすることが出来，看護専門職としての連携の在り方を考えることが出来たと推察される。今後はさらに病院実習との関連を考えた連携スキル学習の内容を充実させていく必要がある。

７．結論

本研究において次のことが明らかとなった。

(1) 看護学生は，看護・理学・作業・社会福祉・介護福祉等の他職種の学生との合同による，連携スキル学習を体験することによって，他職種の専門性の気づき，看護の専門性と多職種連携における役割，チーム医療における課題解決，患者や家族の思いの理解の重要性，連携に必要なコミュニケーション能力について学ぶことが出来ていた。

(2) 看護学生は，連携スキル学習で学んだことを今後どのように活かすかについては，信頼関係を築く働きかけ，患者・家族の立場に立ったケアの意識化，看護職としての連携について考えることが出来ていた。病院実習の経験によって連携の在り方のイメージが可能になることが考えられた。

引用文献

１）厚生労働省：社会保障・税一体の取り組み，2018. 12. 12閲覧，
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/kaikaku.html

２）大嶋伸雄：保健医療福祉系大学におけるインタープロフェッショナル教育（IPE）の認知度と今後の発展性に関する全国調査，保健医療福祉連携45(3)，152，2014.

３）池永理恵子：連携スキル学習における看護臨床実習での教育効果の検討，第12回順正学園学術交流コンファレンス抄録集，p23-25，2016.

４）多職種連携コンピテンシー開発チーム：医療保険福祉分野の多職種連携コンピテンシー，p1-20，2016.